

ODIPv3.4 修正パッチ (P1030400004325) リリースノート

2020/3/31

(株) インテリジェント・モデル

この文書は、ODIP™ Enterprise Solution v3.4 に対する修正パッチ (Build-id: 1030400004325) に関する修正を記述したものです。

ODIP は、(株) インテリジェント・モデル社の登録商標です。

本書に掲載された情報に基づいた行為の結果として発生した損害、利益の損失、経費などについて、(株) インテリジェント・モデルならびに本書の製作関係者は一切の責任を負いません。

本書は著作権法上の保護を受けています。本書の一部あるいは全部を無断で転載・複製することは法律で定められた場合を除き、禁止されています。

目 次

A. 変更内容.....	4
1. Data Virtualization Manager for z/OS への対応.....	4
(1) 改定内容.....	4
(2) 制限事項.....	4
(3) 影響範囲.....	4
(4) 使用準備.....	4
2. その他の修正	5
(1) ODIP アドミニストレータ	5
(2) ODIP オペレーションマネージャ.....	5
(3) ODIP リポジトリマネージャ/ODIP プロセスマネージャ	5
(4) ODIP リポジトリサーバ	5
(5) ODIP トランスフォーマ	5
B. 適用方法.....	6
1. ファイルの更新	6
2. 適用後の確認方法	6

A. 変更内容

1. Data Virtualization Manager for z/OS への対応

(1) 改定内容

データソース情報の DBMS 名に、「Data Virtualization Manager for z/OS」(以下、DVM)が追加され、IBM Data Virtualization Manager for z/OS の仮想テーブルの読み込みに対応しました。JDBC ドライバの URL は既定では、次の形式になっています。変更する場合、jdbcsample/dvm.properties を config フォルダにコピーし、jdbc.url の値を変更してください。

```
jdbc:rs:dv://<host>:<port>;DatabaseType=DVS;user=<user>;password=<passwd>;ApplicationName=ODIP
```

(2) 制限事項

DVM では JDBC ドライバの仕様などにより、以下の制限があります。

- ・ ODIP アドミニストレータの[データベース・ツール] > [データ表示]の「ページ移動」、「CSV ファイルに書き出し」を行うことができません。
- ・ DVM に対しては「参照」のみ可能です。出力のデータソースとして指定することはできません。
- ・ DVM をトランスフォーマ・リポジトリとして使用することはできません。
- ・ DVM 仮想テーブル上の DOUBLE、FLOAT など、浮動小数点数型のカラムを ODIP で読み込むと、出力した結果と実際の値とで誤差が生じる場合があります。

(3) 影響範囲

本改訂による既存の処理、定義への影響はありません。

(4) 使用準備

DVM の JDBC ドライバを使用するために、DVM の JDBC ドライバに含まれる次の 3 ファイルを環境変数 CLASSPATH に追加するか、ODIP 各製品の extlib フォルダにコピーしてください。(ファイル名の数値はお使いのドライバと異なる場合があります。)

- ・ dv-jdbc-3.1.201912091012.jar
- ・ log4j-api-2.8.2.jar
- ・ log4j-core-2.8.2.jar

また、同じく DVM の JDBC ドライバに含まれる次の 1 ファイルを、ODIP 各製品のインストールフォルダ直下 (* .exe が存在するフォルダ) にコピーしてください。

- ・ log4j2.xml

ODIP が起動している場合、コピー後に再起動してください。

2. その他の修正

(1) ODIP アドミニストレータ

その他修正はありません。

(2) ODIP オペレーションマネージャ

その他修正はありません。

(3) ODIP リポジトリマネージャ/ODIP プロセスマネージャ

- ① ODIP プロセスマネージャの [ツールメニュー] > [テーブル・スキーマのチェック]
実行時に、入力データセットのデフォルトに指定したスキーマ名が使用されず、「入力テーブルが存在しません。」というエラーが「ジョブネット生成の問題」タブに表示される問題が修正されました。

(4) ODIP リポジトリサーバ

その他修正はありません。

(5) ODIP トランスフォーマ

- ① Windows 版 ODIP トランスフォーマで環境変数 ODIP_JVM_HOME に指定した外部 Java フォルダが、ODIP の処理の実行で使用されない問題が修正されました。
- ② dbms.properties に loader.support=[true|false]が追加されました。false を指定すると、batchMain.conf の WriteType/DetailWriteType が 3 または 5 の場合も対象の DBMS のみ INSERT によって出力されます。
Windows/Linux/Unix 環境から DB2 for z/OS への LOAD はサポートされていないため、Windows/Linux/Unix 版 ODIP では、DB2 for z/OS の既定値は false になります。

B. 適用方法

本パッチは、次の ODIP 製品に適用してください。

- ODIP アドミニストレータ v3.4
- ODIP オペレーションマネージャ v3.4
- ODIP リポジトリマネージャ v3.4/ODIP プロセスマネージャ v3.4
- ODIP リポジトリサーバ v3.4
- ODIP トランスフォーマ v3.4

1. ファイルの更新

インストール DVD の ODIP34_P004325 フォルダに、各製品の差分ファイルが含まれます。ODIP が起動している場合は停止し、「表 1 パッチフォルダの構成とファイルのコピー先」のとおり、ODIP 各製品の lib フォルダ、bin フォルダに上書きコピーしてください。

表 1 パッチフォルダの構成とファイルのコピー先

フォルダ		ファイルのコピー先	
ODIP34_P004325	lib	ADM	ODIP アドミニストレータの lib フォルダ(4 ファイル)
		OPE	ODIP オペレーションマネージャの lib フォルダ(3 ファイル)
		RPM	ODIP リポジトリマネージャの lib フォルダ(4 ファイル)
		RPS	ODIP リポジトリサーバの lib フォルダ(2 ファイル)
		TFM	ODIP トランスフォーマの lib フォルダ(4 ファイル)
	bin	TFM	ODIP トランスフォーマの bin フォルダ(3 ファイル)
	jdbcsample	TFM	ODIP トランスフォーマの config/jdbcsample フォルダ (1 ファイル)

2. 適用後の確認方法

ファイル更新後は、製品のバージョンが 3.4、ビルド ID が 1030400004325 になります。バージョン、ビルド ID は、各製品を起動して、「表 2 各製品のバージョン・ビルド ID の確認方法」のメニュー、コマンドで確認してください。

更新されるライブラリと対象の ODIP 製品は「表 3 ビルド ID が更新されるライブラリと対象製品」になります。

表 2 各製品のバージョン・ビルド ID の確認方法

製品名	確認方法
ODIP アドミニストレータ	ヘルプメニュー > “ODIP について”
ODIP オペレーションマネージャ	
ODIP リポジトリマネージャ	
ODIP プロセスマネージャ	
ODIP リポジトリサーバ	ODIP リポジトリマネージャの ツールメニュー > “ORMS サーバ情報”
ODIP トランスフォーマ	次のコマンドを実行 “showserver.sh -i v” を実行 (UNIX 系) “showserver.bat -i v” を実行 (Windows)

表 3 ビルド ID が更新されるライブラリと対象製品

ライブラリ名	対象製品
Common database	全製品
Common model	全製品
Transformer server	ODIP トランスフォーマ
Transformer engine	ODIP トランスフォーマ、ODIP アドミニストレータ

以 上